

獅子は死せるに非ず

終刊の辞に代えて

小栗虫太郎

青空文庫

「シュピオ」に、終刊号が出るようになった。

われわれは、ほぼ所期の目的を達成したのであるから、此処で終止符を打つことにする。人は惜しまれ……花は爛漫のとき……そして「シュピオ」は、もっとも売れつつある高潮期に幕をおろす。もちろん、営業部からは続刊の希望もあったが、すでに一年間とさだめた終刊の時期も過ぎていたので、名残り惜しいが燈台の灯を消すことにした。

では……何故、売れつつある雑誌を止めるのか。

それは、当初の目的とする優秀新人の出現に、通巻十二号の今となってもまったく見極めが付かないからだ。斯界しかいの、萎靡いびちすい沈衰は作家各自より、新人諸君に於いてもっとも甚だしいとする。従つて、いかに営業部が続刊を迫るとも、もうわれわれにはこの上の情熱がない。

売れる——が、「シュピオ」に於いてはそれが目的ではない。ただ、唯一の機関、それあるのみだった。

それから、終刊に就いては、もう一つ事情がある。

それは、「シュピオ」という捨石によつて……、せめて一年間も刊行を続けたならば、

あるいは他に、専門誌が生れはせぬかと云うことであつた。しかし、いまではその機運もなく……^{そそ}沮喪にかさね、最後の十二巻目が来てしまったのである。

われわれは、此処で静かに残紙を焼くことにする。

こうして、日本探偵小説は闇のなかへ隠れる。しばらくは、光りのくるまで眠り続けるだろう。

無風の、批評のないなかで、惰眠を貪るだろう。

しかし、「シユピオ」の獅子は、決して死んではない。

（「シユピオ」一九三八年四月号）

青空文庫情報

底本：「シユピオ」傑作選 幻の探偵雑誌3 光文社文庫、光文社

2000（平成12）年5月20日初版1刷発行

初出：「シユピオ」

1938（昭和13）年4月号

入力：鈴木厚司

校正：土屋隆

2004年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

獅子は死せるに非ず

終刊の辞に代えて

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 小栗虫太郎

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>